

セム語派(セム語族)

セム語派 (セム語族) は、言語学において、アラビア半島を中心とする西アジア (≒中東) および北アフリカに分布するアフロ・アジア語族 Afro-Asiatic (かつては、「セム＝ハム語族」または「ハム＝セム語族」とも呼ばれた。→「セム語派」に対して、エジプトや北アフリカの言語を「ハム語派」と呼んだが、その存在は否定されている。) に属する言語グループである。

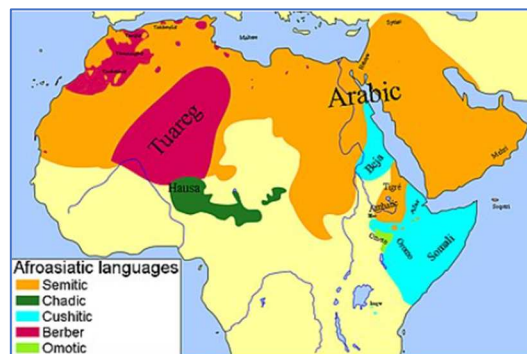
セム語という名称は、18 世紀ドイツの歴史学者アウグスト・シュレーツァーによって、トーラーに記述されているノアの息子の「セム」にちなんで名づけられた (→創世記 5 : 32 他)。

現在でも話されている主なセム語には、次のようなものがある。

- ① **アラビア語** : 主に西アジア (≒中東) や北アフリカのアラブ世界で話されている言語。
- ② **アムハラ語** : エチオピアの公用語。
- ③ **ヘブライ語** : 古代にイスラエルに住んでいたヘブライ人が母語として用いていた言語。古代ヘブライ語 (または聖書ヘブライ語) は西暦 200 年ごろに口語として滅亡。現在イスラエル国で話される現代ヘブライ語は、約 1700～1800 年の断絶を経て近代ヨーロッパで復興された。
- ④ **ティグリニヤ語** : アフリカの角と呼ばれるアフリカ大陸北東部にある国エリトリア中央部、そしてエチオピアのティグリニヤ人が用いる言語である。
- ⑤ **アラム語** : BC7 世紀頃からメソポタミアでアッカド語 (アッシリア・バビロニア語とも呼ばれ、現在知られる最も古いセム語である。) を駆逐して近東 (ヨーロッパから見て東にある国々の内、それほど離れていない地域) の共通語となり、ペルシア帝国の公用語にもなった。紀元後は、東アラム語と西アラム語に分れた。

イエスが使った言語はヘブライ語ではなく、主にアラム語であった。

④セム語派 (セム語族) に対して、エジプトや北アフリカの言語を「ハム語派 (ハム語族)」と呼んだが、現在では用いられていない。



アフロ・アジア語族の分布 (橙色がセム語派) 図：ウィキペディア「セム語派」

【参考】 聖書人物略図(一部)

聖書人物略図(イエス・キリストの系図) ～聖書(新共同訳)に基づく
注意：時代(年代・年号)及び人物配置等には諸説(推論)があり、絶対的なものではありません。

